

# もりの森の話

第25話  
網走西部森林管理署  
阪本 海

若手職員のコーナーです。

私は、大学生の時に木材の化学加工について研究していました。

森林や樹種についてより木材の化学加工に使用する化学薬品を知っている学生でした。

本稿では、そんな山のことをほぼ知らなかった私が、森林事務所の業務を通して感じたことを中心にお話したいと思います。

## 【森林事務所について】

まず、私の森林事務所について簡単に紹介します。

網走西部森林管理署白滝森林事務所の管内には、登山者から人気の「平山」（標高一七七m）があり、地元の貴重な観光資源となっています。登山初心者の私でも楽しく登れました。

また、白滝は日本有数の黒曜石産地として有名です。実は、白滝で出土した黒曜石の石器等が、日本最古の国宝に指定される見込みとなり、新たな観光資源としてより一層注目されています。



平山頂上から見える大雪山系

## 【山に入ってみて】

昨年度森林事務所に着任した当初、造林地に一部急傾斜地で植えても育たないと思われる箇所にあえて植栽してはなかったり、非常に大きなカンバが伐られずに残っていたりするのを見て、先人たちが工夫して施業されていたんだなと感じたことを覚えています。時間を超えて、そこに確かにいた先人の想いをくみ取ることが、林業ならではののおもしろさだと思います。

また、造林地までの道中で、土場跡地に繁茂するハンノキや朽ちた木が倒れている様子、死んだ動物に群がる力

ラス等を見て、月並みな表現ですが、全部つながっているんだなあと、ある種畏敬の念を抱きました。

日々の業務に話を移すと、昨年度は地況林況調査で山に入ることがほとんどでした。前述のとおり、白滝は黒曜石の産地ということもあり、岩盤がむき出しの場所が多くあります。さらに、造林地には大雪山系から冷たい風が吹き下ろすため、植栽木の成長が遅く、伐採するにはあまりに細い木がたくさんあります。



現場で見つけたタモキノコ

## 【小径木は日の目を見ないのか】

そんな現状を見て、私は大昔時代の研究を思い出しました。当時行われていた研究の一つに、木材成分からフラ

ン化合物を効率的に得る研究がありました。

このフラン化合物は、燃料や医薬品、樹脂等の基幹物質です。これらは、現在石油から生成されているため、木材が石油の代替資源となり得ることになります。また、フラン化合物は単価が高いことも特長の一つです。

現在白滝森林事務所の植栽木は径級の小さいものが多く、伐採判断の難しい箇所が多いですが、それは植栽木を木材として利用することが主であるからだと思います。例えば、単価の高いフラン化合物の原料として細かい木の需要が生まれれば、新たな林業の形が見えるのではと半ば夢物語かもしれませんが、ぼんやり考えています。

## 【最後に】

日々の業務ではいまだに樹種の判別に苦戦している状況です。夢物語だけではなく、目の前の業務に丁寧に取り組み、幅広い知識を身につけていきたいと思っています。